

令和7年度 自己評価・学校関係者評価

学校法人 曾根ひかり学園

認定こども園 曾根ひかり幼稚園

1. 本園の教育目標

教育基本法等の幼稚園教育に関わる根拠を踏まえ、仏教（浄土真宗）の教えを心のよりどころとし、次のような幼児像を求めることで、心身ともに調和のとれた健全な幼児を育成する。

- ・明るい子…人と仲良くし、誰とでも遊べる子
- ・強い子…はきはきと自分の考えを言える子
- ・たくましい子…衛生的で健康な子
- ・幸せな子…家族を大切に、感謝の気持ちを忘れぬ子

2. 本年度の重点的に取り組む目標

- ① 子ども達の食への興味関心を高め、食といのちのつながりを伝えながら、健康に生活できる子ども達を育成する
- ② 異年齢交流を通してそれぞれの年齢の友達との関係を広げ、刺激し合いながら思いやりや譲り合いの心を育てる
- ③ 幼児期の性教育やジェンダー問題に触れながらの体の事を知らせ、自分を大切にしていける事を伝えていく

3. 評価項目の取組指標・成果指標

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見など	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標			成果結果
① 子ども達の食への興味関心を高め、食といのちのつながりを伝えながら、健康に生活できる子ども達を育成する	食に関する体験や学びを通して、いのちの大切さや食べることの意味等について伝えながら興味関心を持たせる	4	給食だよりやクラスだよりで、食に関する園での活動を保護者と共有する	3.5	4	園が食育活動を発信する事で家庭でも食について親子で話すようになった	3	B	<ul style="list-style-type: none"> ・この取組みは前年度から継続して行っているが、まだ家庭との連携が不十分である。栄養士さんとの関わりもできにくかったため、交流ができる日の計画を立てるなどして、改善策を考えていきたい。 ・学年で育てて収穫した野菜について保護者に伝える事で、自宅での会話の内容が増え、さらにそれらの野菜に対して親しみを持つ事ができた。 ・子ども達は日々の給食で3食クイズに喜んで参加していた。 ・6つの基礎食遺品群にも触れる事ができ、どれも大切な栄養だという事が理解できるようになった。苦手な物でも食べられるようになった。 ・「食育カルタ」で子ども達が遊びを通して食への関心が高められていき、興味を持って楽しく食と接する事ができた。 ・給食のメニューを読み上げたり野菜当てクイズをしたりして、具材にも関心を持てるようになった。
		3	「栄養列車」で給食の食材を分類しながら、体のどの部分を作っているかを知らせ、どれも大切な栄養だという事を伝える		3	食べることでいのちを大きくしていることが分かるようになった			
		2	給食の時間に栄養士さんから食に関する話をしてもらう事で、メニューや食材に興味関心を高める		2	給食のメニューから「赤」「黄」「緑」の3つのグループの食べ物を探す事を楽しむようになった			
		1	食育に関する行事や活動を実施する（野菜の栽培や収穫や調理・おにぎり会・サンドイッチ会）		1	毎日の給食を楽しみにし、苦手なものにも挑戦するようになった			
② 異年齢交流を通してそれぞれの年齢の友達との関係を広げ、刺激し合いながら思いやりや譲り合いの心を育てる	子どもの主体と保育者の主体がバランス良く共存して、異年齢保育の中で自分らしさを発揮できるようにする	4	異年齢交流で生まれた良い関係や行動を、3学期の公開保育で見ってもらう	4	4	保育参観後に保護者との対話や連絡帳やアンケート等で子どもの関わりや成長を保護者と共有した	4	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもと違う事をするのが苦手な子も、自分から輪の中に入る事を頑張る姿が見られた。 ・異年齢保育を通して、子ども同士が自然に係わり合いながら育ち合う姿がよく見られた。また、優しい声をかけたり手を差し伸べたりする姿が増え、責任感や自信に繋がっていったように感じる。 ・異年齢での保育参観を行う事で目標ができ、保育者のみならず子ども達も「見に来てもらえる」という嬉しい気持ちで交流を深める事ができていた。又、異年齢保育の良さを理解してもらえ、その上で良い評価をもらう事ができた。保育者と保護者が子どもの成長を共有する事ができた。 ・ポスター制作で保護者の方も異年齢保育の意味や、子どもの様子や活動を理解する事ができていたようである。
		3	子ども達がグループ活動以外の場面でも、自然なかたちで交流できるよう保育者が働きかける		3	子ども達が異年齢の友だちに声を掛けたり活動に関心を持つ様子が見られた			
		2	信頼関係を築く為に互いに意識し合える遊びや活動を取り入れる		2	交流を通して年下を思いやる気持ちや、お兄さんお姉さんへの憧れの気持ちを持つようになった			
		1	異年齢グループを分け、年間8回の異年齢交流(グループ活動)取組みを計画する		1	自分のグループの先生や友だちを知る			
③ 幼児期の性教育やジェンダー問題に触れながら体の事を知らせ、自分を大切にしていける事を伝えていく	性の話をする土台をつくり、性や個の違いを伝えていくようにする	4	園での性教育を家庭に発信し、共通理解できるようにする	3.6	4	家庭でも性や体の大切さを話すようになった	4	A	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・交通安全教室・防犯教室を通して、命はひとつしかない事を繰り返し伝えてきた。学年が低い幼児にとっては難しい事であるが、いのちがひとつしかないという事はしっかりと理解できている。 ・園オリジナルの教材を使って各学年2回ずつ伝えてきたが、まだ行動が伴っていない幼児もいる。繰り返し伝えていく必要がある。 ・トイレや着替えの際に長時間下着のままにならないよう声かけをし、友だちのプライベートパーツを見たり触ったりしない約束を定期的に行う事で子ども達が意識できるようになった。 ・プライベートパーツの活動について配信をし、園で約束した「NO!」「GO!」「TEL!」を保護者にも伝え、共通理解できるようにした。
		3	友だちの「良いところ見つけ」をし、みんな違ってみんないい、という気持ちを育てる		3	自分は大事と思うと共に、友だちも大事と思う気持ちが育ち、友だちとの関わりが優しくなってきた			
		2	絵本や保育教材を使い、子ども達に「プライベートパーツ」について伝え、自分の体に興味関心を持てるようにする		2	体の大事なところを知り、話の中で「おちんちん」「おっぱい」などの言葉を笑わずに聞くようになった			
		1	いのちはたった一つしかない事を繰り返し伝える		1	いのちの大切さが理解できるようになった			

4. 総合的な評価結果

評価	評価の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任が毎日栄養列車に子どもと取り組む姿や、年長からは「たんぱく質」「脂質」などの事まで子ども達と共有しており、さらに栄養への関心が高まってきているように感じる。 ・食育では、せっかく自園に栄養士さんがいるので、早めに交流が持てる日の計画を立てるなどして、保育者目線ではなく献立を考えたり調理をしたりする人の目線で話をする事でより楽しく栄養について学べるのではないかと思う。 ・異年齢交流に関しては、「ひかり祭」という活動を計画する事で、年間を通して子ども達や保育者もより意識しながら交流を深める事ができていたと思う。 ・今後も異年齢交流を行っていくことで、活動以外の場面でも自然な形で交流できるよう保育者の働きかけが必要だと感じる。 ・今日的課題である子どもの性については、職員全体でどこまで伝えていくのかを共通理解しながら丁寧に伝えていく事が必要だと感じる。普段使ってはいけないという雰囲気のお尻」「おっぱい」「おちんちん」「キスをする」などの言葉も笑わずに受け止めていけるようにすることが大切である。教材を使って繰り返し話をしていく事で、子ども達も「大事な話」という意識が育っていくと思う。 ・ジェンダー問題に関しては、連絡ノートや保護者からの話によって、子どもの中に少しずつ「プライベートパーツ」が浸透している事がわかった。3月にはジェンダー問題担当の先生からの手紙で今年度の取り組みや、取り組んだ1年の成果について発信している。 ・プライベートパーツについて意識を深める事も大切であるが、それ以前に自分らしさの大切さをもっと子ども達に分かりやすく伝えていくという課題もあると感じる。

5. 今後取り組む重点目標（令和8年度に向けて）

課題	具体的な取り組み方法
① 子ども達の年齢に応じた「食」への取り組みを継続しながら食といのちのつながりを伝えていく	<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはん」や「栄養列車」の大切さを子ども達に伝えていく事で、日々意識しながら毎日を元気に過ごせるようにする。 ・栄養士や調理員との連携を図り、子ども達に食に関しての話をしてもらう。 ・絵本などの教材を通して、体の仕組みについて知る事ができるようにする。
② 幼児期の発達を踏まえた教材を工夫して、室内や園庭の環境を季節を取り入れながら整えていく	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊び方や成長に合った玩具や遊具の見直しを行っていく。 ・園庭での遊びはどんなものがあるのかを職員間で考え遊びの環境を整えていく。 ・自然物を教材として使う事で、子ども達が自然や季節の変化を五感で感じ取れるようにする。
③ 職員間の連携を深める職員会議・園内研修・ケース会議を充実させ、ワークライフバランスにもつなげていく	<ul style="list-style-type: none"> ・月に2回話し合いの場を設ける。 ・職員会議・園内研修・ケース会議を行い。職員間の共通理解や子ども理解を深めていく。 ・仕事とプライベートのメリハリがつく働きやすい環境（ワークライフバランス）を整えていく。

6. 学校関係者評価委員の方の評価・ご意見

- ・園が子ども達の気持ちを育てていく為に、創意工夫をしていると感じる。いつ来ても子ども達のはきはきとしていて元気いっぱいである。
- ・異年齢交流の活動を参観したが、年長児が出しゃばらずに年下の子を見守っている姿がいろいろな場面で見られた。自ら進んでのびのびと活動に取りこんでいると感じた。
- ・先生が子ども達の意見が出るまで待つ姿が見られた。
- ・子ども達の知識と吸収力はすごいと感じる。ひかり祭の活動は素晴らしかったので今後も続けて欲しい。
- ・公開保育を見て回る中で、看板や品物の表示の字が違っていてもそれを先生達が訂正するのではなく、子どもの全部を受け止めて認めていると感じた。こういう認め方があれば、親も安心して預ける事ができる。「これでいいんだ」という自己肯定感を高めてあげるようにすることが今の時代は大事だと思う。
- ・曾根地区の自治会でも協力体制を整えていきたいと思っているので、ぜひ幼稚園の行事を知らせてくれたら参加していこうと思っている。
- ・幼稚園に来て子ども達の姿を見るととても刺激になり、自分自身も元気になれる。楽しみにしながら園に訪問させてもらっている。

《学校関係者評価委員による学校評価の流れ》

	日 時
1	令和7年5月30日(金) 学校関係者評価委員会発足
2	令和7年7月2日(水)3日(木)10:30~11:30 全クラスの公開保育 及び評価
3	令和7年10月12日(土)8:45~12:00 運動会の観覧 及び評価
4	令和8年1月28(水)29(木)10:30~15:00 異年齢交流活動「ひかり祭」観覧および評価
5	令和8年2月20日(水)11:00~12:00 学校関係者評価委員会会議 ・評価委員と幼稚園園長と懇談会 ・保護者アンケート結果 ・令和7年度のまとめと評価 ・次年度の課題

学校関係者評価委員（曾根市民センター館長） _____ 印

学校関係者評価委員（中曾根自治会会長） _____ 印

学校関係者評価委員（小倉南交通安全協会役員） _____ 印

学校関係者評価委員（元小学校教諭） _____ 印

学校関係者評価委員（保護者会 前年度会長） _____ 印

学校関係者評価委員（保護者会 今年度会長） _____ 印

学校関係者評価委員（保護者会 今年度会長） _____ 印